

各種審議会等審議結果公表シート

会議の名称	平成 25 年度第 1 回中津川市地域包括支援センター運営協議会
開催日時	平成 25 年 8 月 22 日（木）13 時 30 分 ～ 15 時 00 分
開催場所	中津川市文化会館 小会議室
出席者の役職名	【委 員】 恵那医師会代表 施設サービス事業者代表 在宅介護支援センター代表 介護保険第 1 号被保険者代表 介護保険第 2 号被保険者代表 介護者家族代表 ボランティア団体代表 社会福祉協議会代表 民生・児童委員代表
話し合われた内容 （会議録又は審議概要）	別添議事録参照
会議資料	別紙のとおり
次回開催予定日時	平成 26 年 2 月を予定
次回開催予定場所	健康福祉会館
所管部課	健康福祉部 高齢支援課

平成25年度 第1回中津川市地域包括支援センター運営協議会 議事録

平成25年8月22日(木)
13時30分から15時00分
中津川市文化会館小会議室

- ・委員13名出席
- ・ボランティア代表 新任委嘱

I. あいさつ

【健康福祉部長】

高齢化率上がってきており、4月から団塊の世代が高齢者となり、現在高齢化率は28.4%。いろんな課題も出てくるだろう。

最近では、独居高齢者の問題や認知介護・老老介護と言われる厳しい問題が多い。その中で地域包括支援センターの役割が求められる。

高齢者が住み慣れたまちで安心して暮らせるよう、地域包括支援センターの一層の充実を図っていききたいので、ご協力お願いしたい。

【会長】

皆さまからご意見・ご質問等頂けたらありがたい。

II. 議題

1. 平成24年度事業実績について

資料1

- (1) 中津川市の高齢者の状況
- (2) 包括的支援事業
- (3) 介護予防事業
- (4) 任意事業
- (5) 認知症みまもりの「わ」事業

【事務局】

資料に沿って説明

《質疑・応答》

【委員】

P1. 独居とあるが、高齢者に関係なく全年齢層を対象とした独居か。

高齢者世帯の世帯数と独居は人数が合うのか。高齢者世帯は世帯の数を言っているのか。

【事務局】

独居高齢者。世帯に含まれる人数を言っている。

【委員】

そうすると独居は人数を言っている？

【事務局】

はい。高齢世帯は複数世帯。

【事務局】

独居と高齢世帯は別のもので、高齢世帯は2人以上の高齢者ばかりの世帯を言っている。

【委員】

この独居は65歳以上の方対象？

【会長】

ご質問は高齢者世帯数なのか、世帯に住んでいる人数なのかという事ですが、高齢者世帯数？

【事務局】

はい。世帯数。

【事務局】

高齢者世帯は世帯数。複数名の高齢者だけでみえる世帯。独居は世帯数＝人数。

【委員】

65歳以上の人口というのは65歳以上75歳未満かと思った。こういうデータを書く時は、わかりやすく説明してもらわないと。2ページ目を見て初めてわかった。

介護予防事業、利用者がどうして3%しかいないか、原因をどう解析しているか。

【事務局】

教室のお知らせを電話等ですが、二次予防事業の高齢者の方は、慢性疾患を抱えており持病があってもなかなか出られない方や、足腰が弱くても畑仕事など自分なりに運動が出来ており、そこまでして出掛けていなくても、運動が生活化しているから大丈夫という方が多い。逆に、出て来られる方は運動に関して興味があり、健康も維持したいという強い思いがある。

去年は150件程電話をしたが、半数以上が持病、ご主人の介護などで忙しい、等だった。

【委員】

心電図検査で異常なしの人が対象だが、心電図の判定厳しいのでは。高齢の方で心電図が正常な方は少ない。どれ程の心電図異常だったら運動を許可出来るかレベルを検討したらどうか。参加の基準を少し緩くしても、安全に出来るのでは。循環器の先生も交えて討論すれば、対象者・利用者増えるのでは。

平成25年（聞き取れません）が変わってくる。要支援1でも行政が（聞き取れません）という議論進んでいる。少しでも利用者を増やしていくよう議論するといいいのでは。

あんきなくらぶの対象は要支援1・2の方？

【委員】

認定を受けていない方が対象。

【委員】

この人たちが認定を受けた場合、あんきなくらぶからは外れる。問題に思うのは、外れた人があんきなくらぶに慣れてしまい離れるのを嫌がるが、この人は他のサービスを受けるべき。あんきなくらぶの制度を疑問に思う事がある。外れた人はもっと他のサービスを受けるよう適切な指導を日頃からやって理解させておく事が必要ではないか。

【委員】

地区の担当者にそのような話をする事ある。こちらも納得して頂くよう説得するのに苦労している。その方がどこにいる事が一番適切かを考え指導してもらおうよう、担当者会議を検討重ねている。きちんと精査しながらやっていきたい。

【委員】

今の件に関して、(家族が)介護1と介護2だが、本人たちにはプライドあり、(教室などへ)「行った方がいい。」と家族が訴えても、「畑仕事が出来からそんな所に行く必要はない。」と。あんきなくらぶに行っている方はすばらしい。良い制度だと思う。

唯一行っているのが体操をしてくれる所。農作業をするためにそこに行っている。

87歳になり、同級生はみんな死んで、(本人は)家で怒っているだけになってしまう。家族は行った時だけでもストレスが発散出来ると思っているが。

高齢で特に男性の方のための料理教室や農作業をするための健康増進など、プライドを保ちながらもっと楽しくなるような教室が沢山出来るとありがたい。男性は特に、出ていくのが億劫で生活を変えるのが難しい。

【事務局】

資料1のP11・12 在宅介護支援センターで介護予防教室を一次予防事業でやって頂いている。こちらでは、男性が出る場所づくりという事で、料理教室をやっている所もある。運動事業では水中運動をやっている在宅介護支援センターもある。

男性参加者も増えてきており、地域毎で男性の居場所作りを少しずつやって頂いている。

やはり男性は誘っても出て来て頂くのにかなり苦労しているが、老人クラブ・高齢者大学にはかなり男性が多く出られているよう。そちらにも働きかけるようにしていきたい。

【委員】

私は阿木で、P15に 講座の開催希望は少なくなり受講者が減少気味とあったが、シクラメン主催の認知症講座は30代～80代の人がたくさん集まり非常に好評だったので、これは違うかと思った。今年の開催数ではなく去年の開催数？

【事務局】

はい。P13の認知症予防講演会で、阿木は高橋先生にやって頂いた。在宅介護支援センター主催で、地区毎にやって頂くようお願いしている。数字は反映されていないが、好評だったという話は聞いている。

【委員】

認知症になりたくないという人は大勢いる。需要もあるので、これはやっていかなければいけないと思う。

講座の中で、アルツハイマーの場合は何をやってもだめ、治らないというような話だったが、ある所で聞いたら、アルツハイマー型認知症なのか他の認知症かわからないので、予防に運動や読書などをするよう紹介されたが、認知症予防に効果がある、日常継続して出来るものをもう少しアピールしてもらおう。

誰もが関心を持っているが、何をやっていけば認知症に効果があるのかという講演をもっとやってもらえればいいのでは。

もう1点、テレビで整形外科の先生がノルディックウォークをやると、歩けない人が歩けるようになったとやっていたが、効果があるのか。地域のスポーツクラブでも推奨してやっている。

【委員】

やっているのをよく見かけるが、下肢だけでなく上肢の筋力も鍛える。完全かは疑問だが、ある程度の効果はあるのだろう。

【委員】

人口の問題、平成25年度まで出ているが、会議をやる為には、いつが中津川市のピークなのかを見定めて、それを見て何をつくっていくのか、というのが本当だと思う。25年度までという事ではなく将来も考えて。

2点目は、国会で要支援がすべて市町村の担当だという事で、新聞にも載っていたが、そうなった時に、各市町村は出来るか出来ないか判断して発信していかないと、国は知らない、あとは市町村でとなるのでは。

介護施設100：0でなくてもいいが、実際介護は大変。お互い支え合い、一般の介護職などに流れがいくようにやっていかないと、虐待するなどいっても、気持では分かっているもなかなか難しいという事が出てくるのでは。

【会長】

神坂・阿木は特別養護老人ホームに入っている方があり高齢化率が高い、との事。高

齢化率が進んでいくと、自分の地区はどうなのかなど非常に興味がある。公表する・しないは別として、阿木・神坂が59人・61人という事なので、もう1表起こすか、行を増やして65歳以上の方から特養に住む65歳以上の方を引いた高齢化率を、あるいは高齢世帯、独居世帯には特別養護老人ホームの方は入っていないというような脚注を書いてもらうと参考になるデータになると思う。

【事務局】

入所者数はわかるが、その方すべてが住所を移しているかどうかは不明。入所者がいるので、参考というかたちでしか分からない。

【会長】

住所はわかるはず。外す事も出来る。シクラメンに住所を移した人が何人か聞いているし、外した高齢化率も33%だと聞いている。

【事務局】

住所を移している方はカウント出来るが、世帯のまま住所が残されている方は、独居としてカウントされていない方もある。

【会長】

シクラメンに住所を移している人を外すのは可能では？

【事務局】

住所が移っている人を把握するのは可能。でも移っていない人は分からない。

【委員】

移った人を外す事は出来る。加藤さんが言われたように本当の高齢化率の動きが出る。

【会長】

これから高齢化率はだんだん上がって来る。関心事になると思うので、特養の方を勘案したように出来るのならそのような系列の表になるといい。難しければいい。

【事務局】

入所者全員を抜く事は難しいが、先程の神坂・阿木の人数も施設に入って住所を移して独居扱いになっている方。実際住所を変えてない人は数字に入れていない。

【会長】

独居の中に入っている？ではそれも引いてもらう。

【事務局】

住所を移している方は示せるが、移していない方を整理するのは難しい。実際に住所を移していない人は数字に入れてない。抜く事は出来るので、出させて頂く。

阿木は61で広済寮が59と言ったが、恵翔苑（付知）は63名、福岡（二ツ森）48名、南（清和寮）20、苗木（瀬戸の里・ふくろうの杜）111。住基上独居で、施設に住所がある人。この数字を抜くとより近いデータになると思う。

2. 平成25年度取り組みについて

資料2

(1) 高齢者虐待防止の取り組み

【事務局】

資料に沿って説明。

(2) 介護予防事業

【事務局】

資料に沿って説明。

(3) 認知症まもりの「わ」事業

【事務局】

資料に沿って説明。

＜質疑・応答＞

【委員】

高齢支援課として熱中症対策の取り組みは何かあるか。

【事務局】

5月にチラシを作り、在宅介護支援センターが高齢者、特に独居世帯に訪問する際に、チラシを持って啓発してもらおうようにした。ケアマネジャーにも訪問の際チラシを持って啓発してもらった。

消防署から、実際搬送された方の話を聞き、どういったケースが多いか分析した。今年度は気をつけて頂いており搬送は減っているが、どちらかというと虚弱な方より、あともう1時間と頑張りすぎて、帰って来てからえらくなつたなど、元気に仕事をしているの方が心配。若い方では運動のし過ぎもあり、虚弱な方への啓発もあるが、元気な方への啓発も考えないと。

毎年5月の連休明けくらいから予防啓発の訪問活動をしている。

【委員】

もの忘れ相談はどこでやっている？時間は何時～何時まで？

【事務局】

健康福祉会館でやっている。

【事務局】

1時半～3時まで。予約による。予約多い時は昨年で2時半～6時くらいまでの時もあつた。

【委員】

ここでは何をやっている？

【事務局】

電話で予約をされた方の認知症の相談。

【委員】

市民病院でももの忘れ外来が始まっている事を皆さんご存知か。そういった所への連携はどう考えているか。

【事務局】

市民病院のもの忘れ外来の相談も増えていると聞いた。担当の先生の講演も秋から始めると聞いている。

【委員】

市民病院はお金がかかるが、ここでやっている相談は無料？

【事務局】

医療的な相談に繋げることは必要だと思っているが、相談される方は、病院へ行こうかどうしようか、助言を聞きたいという方。中には（受診を）躊躇されている方も。いろんな所で話を聞き、必要があればもの忘れ外来や医療機関にかかるように先生に助言をして頂き、受診に繋げる機会にしている。

【委員】

大島先生はボランティアで来ているのか。

【事務局】

こちらでお礼を支払っている。医療の診療とは別で。

【委員】

医師が相談に乗るという事は、かなり期待して来る。ここでは話を聞くだけという前提を理解しておいてもらわないと。これで終わりかとなりがち。市民病院のもの忘れ外来がせつかく始まったので、そこを活用して連携を取るといいのでは。包括が医者を見出してやる事ではないと思う。

【委員】

病院にかかるのはとても勇気がいる。この相談はとてもいいと思う。(医者に)かかる必要があるかないかの判断の相談に乗る、と前面に押し出してはどうか。これで治ると

かではなく、心配な方の病院にかかるかどうかの相談に乗りますよ、と分かりやすくして、先生に判断して頂けるといい。

本人は認めたくない。家族はおかしいと思うが、最初に病院に連れて行くのが大変で、自分の場合はすごく悩み、まず私が先生にかかり、CTを撮った方がいいと言われたので、頭に腫瘍が出来ているとも忘れもあるから診てもらおう、と病院に行った。

本人に認知症だと認めさせる事が大変。病院にかかるまでが家族は悩むところ。本人だけでなく家族もかかって、どう病院へ導いたらいいか相談できる窓口が欲しい。ここは病院のように治す所ではないと明確にし、家族がどう病院へ連れて行ったらいいか方法を教えて下さり、何の目的でこういう事が出来る、とはっきりするとありがたい。

【委員】

市民の気持ち分かるが、先生は忙しい。医者と話したいなら、かかりつけで相談出来ないか。医師は学校医・予防接種・介護保険の審査会などいろんな仕事があり、昼休みも忙しい。不必要に医師を出させると負担がかかる。市民にも理解頂き、心配ならかかりつけ医にかかればいい。

脳トレいきいき教室のくもん学習療法、私の施設でもやっている。市民病院・中津川市より先走り、全国のモデル施設になり、くもんから毎月視察に来ている。アメリカからも来た。くもんから聞いたが、中津川市の取り組みは、発案はいいが継続性に欠ける、と。継続するためには何を考えないといけないかもう少し考える必要がある。軌道に乗せていく所が足りないのではと指摘していたので伝えておく。

3. 平成25年度 介護予防支援業務の委託先について

資料3

【事務局】

委託先が増えた理由は、春日井市の有料型老人ホームに中津川市の被保険者が入居され、サービスを委託するため。

4. その他

【会長】

最後に、上田先生、向さんからご意見あったように、テレビ等で平成27年度の介護保険制度の改正で要介護認定者うち要支援1・2の人を、国の言い方だと金のかからないボランティアで介護予防をしていこうという話を聞く。そうすると、地域包括支援センターの組織・業務内容も変えられていくだろう。協議会の中で情報を伝え、意見徴収をして頂きたい。